

～親と子のための考古学教室～

富士市

# 原始・古代の旅

富士市教育委員会

中原第4号墳の石室内

## ～はじめに～

近年、全国では年間8,000件前後の埋蔵文化財の発掘調査が行われ、青森県の『三内丸山遺跡』や佐賀県の『吉野ヶ里遺跡』などの発掘調査は、現在の人々に縄文時代や弥生時代の、より豊かなイメージを与えてくれました。

富士市内に目を移すと、国指定史跡の『浅間古墳』をはじめとして約800基もの古墳があります。また、全国的に知られた遺跡としては、『木島遺跡』、『天間沢遺跡』、『東平遺跡』などがあり、それぞれの遺跡のひとつひとつが、私たちに原始・古代の歴史を語りかけています。しかし、これらの古墳や遺跡は、ある日突然つくられたものではなく、長い自然との交わりの歴史のなかで、人々の創意工夫と努力によって築かれたものといえます。

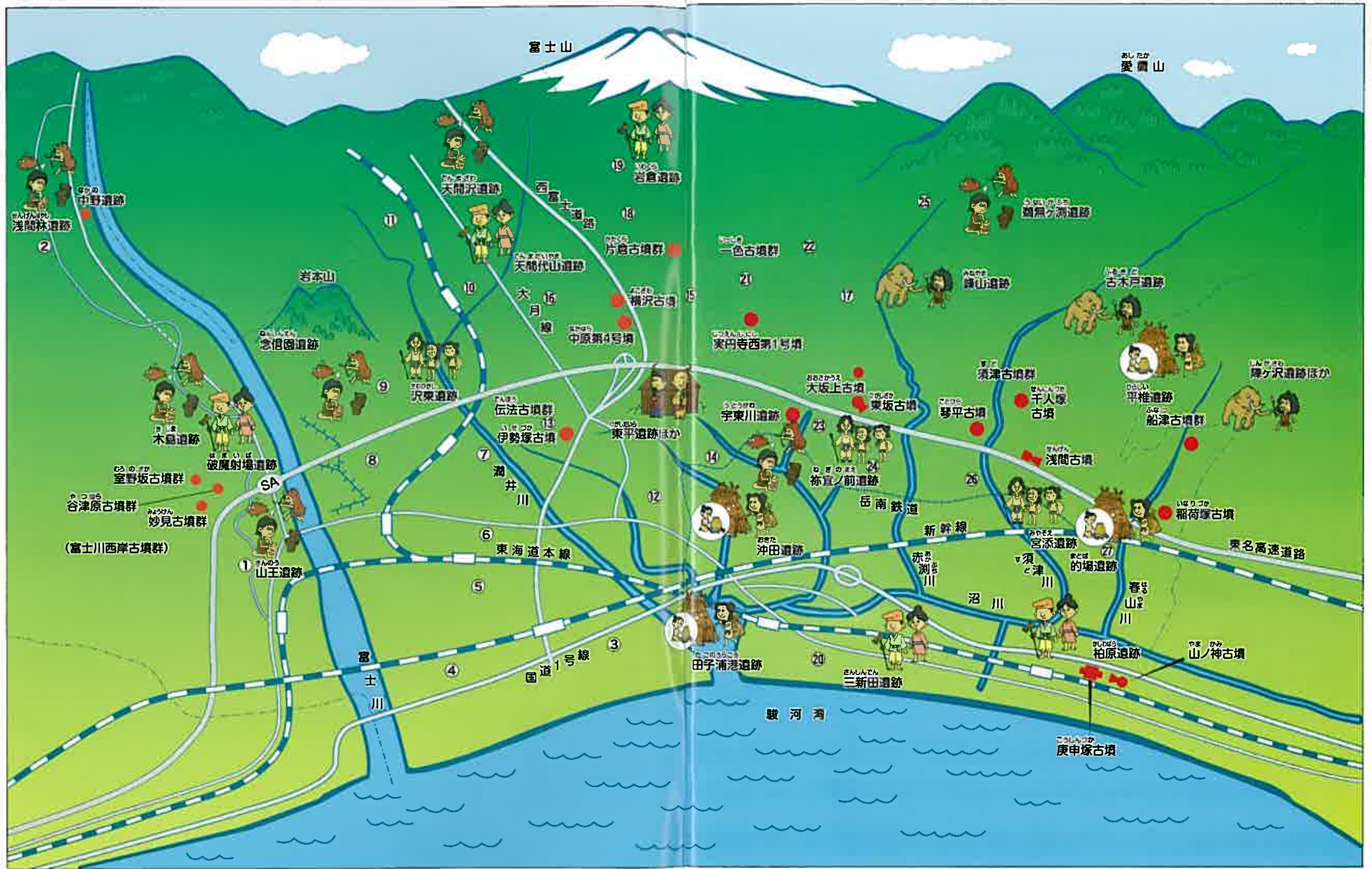
近年、市内でも数多くの埋蔵文化財の発掘調査が行われ、新しい発見が続き、その成果が公表されてきました。この本は、富士市の原始・古代について、発掘調査から分かったことを皆さんに伝えるために、まとめられたものです。

この本を手にしたみなさんが、郷土の歴史の一端を理解し、郷土の文化財への愛着を持ち、将来に伝えていただくことを切に願っています。

富士市教育委員会 文化振興課



東平遺跡(伝法小学校地内発掘調査・平成18年)



- |            |           |         |           |           |         |
|------------|-----------|---------|-----------|-----------|---------|
| ① 富士川第一小学校 | ⑥ 富士第一小学校 | ⑪ 天間小学校 | ⑮ 丘小学校    | ⑳ 青葉台小学校  | ㉔ 須津小学校 |
| ② 富士川第二小学校 | ⑦ 富士中央小学校 | ⑫ 吉原小学校 | ⑯ 富士見台小学校 | ㉕ 神戸小学校   | ㉕ 東小学校  |
| ③ 田子浦小学校   | ⑧ 岩松小学校   | ⑬ 伝法小学校 | ⑰ 大淵第一小学校 | ㉖ 原田小学校   |         |
| ④ 富士南小学校   | ⑨ 岩松北小学校  | ⑭ 今泉小学校 | ⑱ 大淵第二小学校 | ㉗ 吉永第一小学校 |         |
| ⑤ 富士第二小学校  | ⑩ 鷹岡小学校   | ⑮ 広見小学校 | ㉘ 元吉原小学校  | ㉘ 吉永第二小学校 |         |

〔富士市内の主な遺跡〕

遺跡名	地区名	
古木戸遺跡	増	川
陣ヶ沢遺跡	船	津
峰山遺跡	間	門
矢川上遺跡	船	津
シンゲン沢遺跡	天	間
木島遺跡	木	島
天間沢遺跡	天	間
宇東川遺跡	宇	東
念信園遺跡	原	本
中島遺跡	原	本
浅間林遺跡	北	松
山王遺跡	岩	野
沖田遺跡	今	泉
的場遺跡	境	川
平椎遺跡	増	川
浅間古墳	増	川
東坂古墳	比	奈
琴平古墳	中	里
庚申塚古墳	東	柏
山ノ神古墳	東	柏
伊勢塚古墳	伝	法
実円寺西第1号墳	三	ツ
千人塚古墳	神	谷
富士川西岸古墳群	岩	淵
宮添遺跡	増	川
祢宜ノ前遺跡	比	奈
三新田遺跡	松	新
沢東遺跡	久	沢
東平遺跡	伝	法
三新田遺跡	松	新
舟久保遺跡	今	泉
宇東川遺跡	原	本
破魔射場遺跡	岩	淵
浅間林遺跡	北	松
野		

～時の流れ～



地球が誕生して45億年、人類が生まれて200万年、そして

私たちの富士市に人々が住み始めるのが2万8千年前(古木戸遺跡)です。私たちのお父さん・お母さん、おじいさん・おばあさん、そしてはるか昔のおじいさん・おばあさんと、そのDNAは私たちに受けつがれています。それらは時の流れとなって川の流れのように、とぎれなく続いているのです。

この時の流れのなかには、台風や洪水、地震、食糧不足など自然がもたらす苦しいこともありました。その時、昔の人々は、たくましい生活力と、豊かな知恵で、自然を上手に利用しながら生き続けてきました。

さて、これからもみんなで時の流れを探検してみましよう。でもその前に、昔の遺跡はどうやって調べるのか、遺跡の発掘現場を見学して行きましよう。



～発掘調査のようす～

住居がどのように埋ったかを調べるために土手を残して掘る。土手ははずして床面まで広げ、残っている土器や石器をあらわし、はしら穴や伊もさがして掘りあげる。

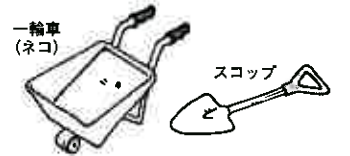


出土した土器や住居のようすを図や写真で記録する。

遺構や遺物の位置を正確に測る  
トータルステーション



カマドや床面がどのようにつくられているかを調べて記録する。



発掘調査は、土器や石器を集めるだけではありません。発見された遺構や遺物(人々の生活のあとや残された物)から、私たちの祖先の生活のようすを調べることです。建物を建てたり道路を造るなど、社会生活に必要な工事や開発によって、どうしても遺跡がこわれてしまう時、最後の方法として、遺構や遺物のようすを正確に記録して保存するために発掘調査を行います。そして、その内容を本(発掘調査報告書)にまとめたり、博物館で展示したりして、大勢の人に見てもらいます。遺跡や遺物について調べたい時は、博物館や図書館に行ってみましよう。

～整理作業のようす～



土器などを洗ったり、測ったりする。

時代の分け方

この本では、それぞれの時代を旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代・平安時代と表しています。これは、それぞれの時代の特徴をあらわすものをもとに分けています。旧石器時代は石器を、縄文時代と弥生時代は土器を、古墳時代は古墳を、奈良時代と平安時代は政治の中心地をもとにしています。

※世紀について…年を100年ごとに区切って表す方法で1年～100年までを1世紀、101年～200年までを2世紀とします、ちなみに645年の大化の改新は7世紀(601年～700年)、現在は21世紀(2001年～2100年)となります。



## ～旧石器時代～

今からおよそ1万2千年以上前の、土器の無い時代を旧石器時代きゅうせつぎといいます。この時代の人々は、ナウマンソウやオオツノジカなどの動物や木の実など、食べ物を求めて移動して生活していました。そのため洞窟どうくつのなかや、テントのようなもので暮らしていたようです。道具も木の枝や石を打ち砕いただけの簡単なものでした。

古木戸B遺跡ふるきど(増川)は、現在のところ富士市で一番古い遺跡です。この遺跡からは、尖頭器せんとうぎ(槍の先)が見つかっています。

矢川上C遺跡やがわうえ(船津)からは、黒曜石を打ち砕いてつくったナイフ形石器などが発見されています。また、焼けた石がたくさん見つかリ、これは、焼けた石の上に肉などをのせて調理をした跡ではないかと思われます。



▲古木戸B遺跡出土の尖頭器

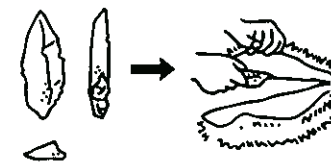


▲磐田市高見丘遺跡 調理跡と思われる石の集まり

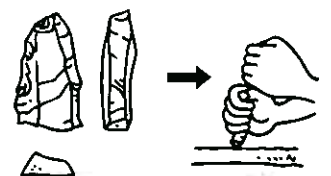


▲三島市八田原遺跡 落とし穴群

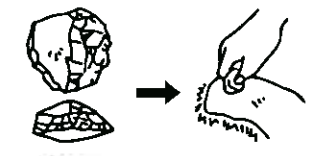
## 石器の種類と使い方



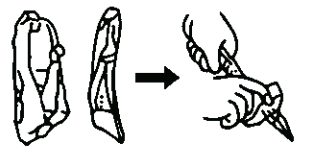
ナイフ形石器 切る



彫器 削る



搔器 ひっかく



削器 削る

### 市内の旧石器時代の遺跡

富士市内の旧石器時代の遺跡の発見は少なく、天筒の天筒沢遺跡てんま てんまざわ、岡門の峰山遺跡まかど みねやま、亀窪遺跡かめくぼ、増川の古木戸A・B遺跡ふるきど、宮添遺跡みやぞえ、船津の陣ヶ沢A・B遺跡ふなつ じんがざわ、矢川上C遺跡やがわうえが知られているのみです。この時代の遺跡は愛鷹山麓あしたかさんろくに集中していて、隣の沼津市に入るとたくさんの遺跡とどろが発見されています。沼津市には、国指定の遺跡である休場遺跡やすみばがあります。

～石器のつくり方～



原石を割る



大きさをととのえる



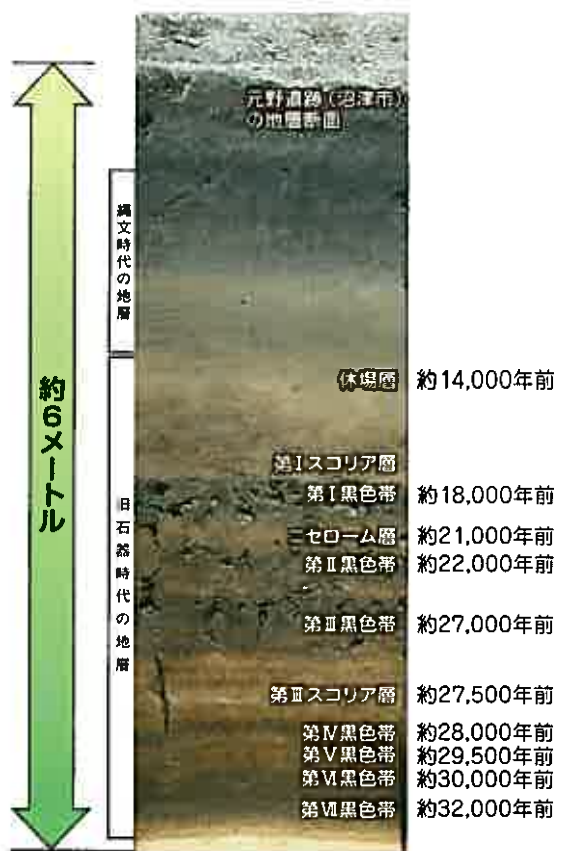
石器の形にする



刃をつける

火山灰と旧石器時代の人々

旧石器時代の人々が生活した時代はどんなようすだったのかな?どんな地層から石器が発見されるのかな?写真は3万年前から現代までの沼津市元野遺跡の地層で、約6mの深さがあります。これらのほとんどは富士山から噴き出された火山灰が積もってできています。愛鷹山や箱根山の麓にある遺跡では、石器はどの層からも見つかります。そのなかでも休場層に集中しています。旧石器時代の人々は、噴煙をあげる富士山を見ながらナウマンゾウやオオツノシカなどを追いかけていたでしょう。



▲沼津市元野遺跡の地層

～縄文時代～



縄文土器だよ!

1万2千年ほど前、土器が作られたことによって縄文時代が始まりました。気候が暖か

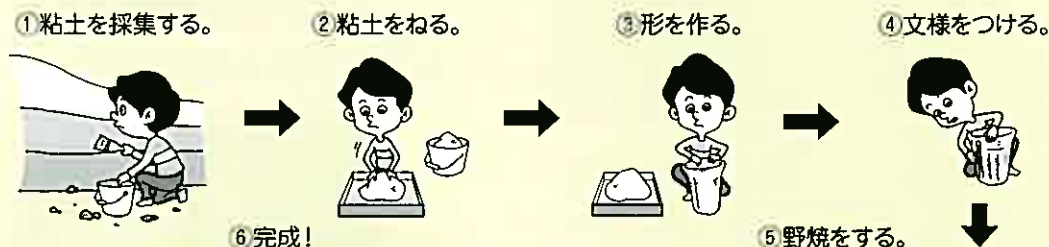
くなるにつれて、木の実やイモ類、動物など食べ物の種類も増えました。土器の発明により食糧を貯蔵することや、煮炊きすることもできるようになりました。また、石器の種類もふえるなど、旧石器時代と比べると、大きな進歩が見られました。

縄文時代はおよそ1万年という長い間続きました。



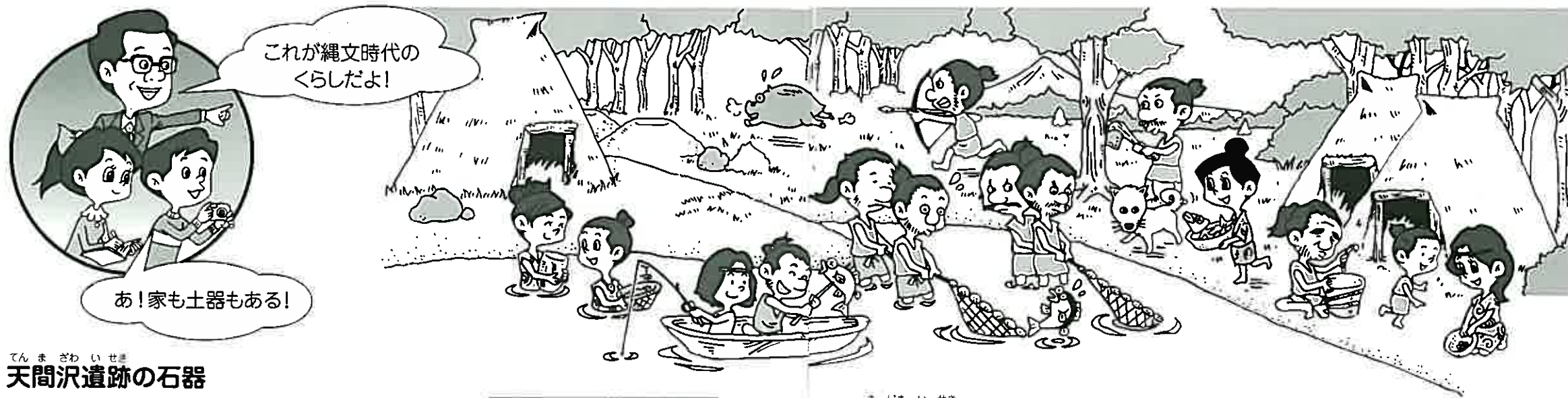
▲天間沢遺跡出土の土器

縄文土器をつくってみよう



土器の文様の種類



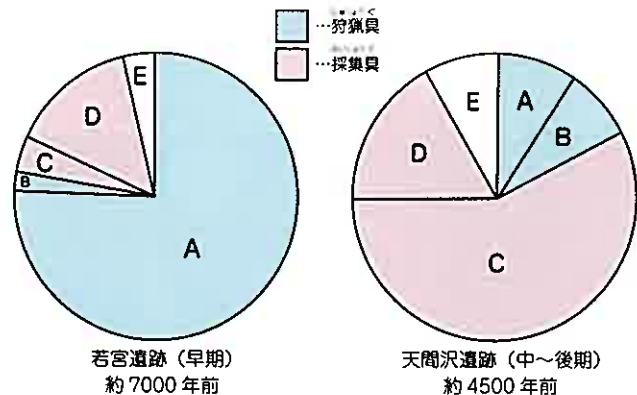


てんまざわいせき  
**天間沢遺跡の石器**

天間沢遺跡は、縄文時代の中ごろ(4500年ほど前)の富士市を代表する遺跡です。現在の天間幼稚園付近が遺跡の中心になるようです。この遺跡からは、打製石斧(石を打ち砕いてつくった斧)がたくさん発見されましたが、石鏃(石の矢じり)はそれほど多くはありませんでした。しかし、天間沢遺跡の近くの若宮遺跡(富士宮市)からは石鏃が2000個近く発見されました。

下の円グラフを見て、若宮遺跡(縄文時代早期)と天間沢遺跡(縄文時代中期～後期)のちがいを考えてみましょう。

- A・・・槍先や投槍の先と石鏃(石の矢じり)で狩猟の道具です。
- B・・・石匙で動物の皮をはいたりするなど、ナイフのように使います。
- C・・・打製石斧(石を打ち砕いた斧)で土掘りの道具といわれます。
- D・・・石皿や磨石で木の実などの製粉用に使いました。
- E・・・その他



▲天間沢遺跡出土の石皿と磨石



▲打製石斧 ▲石鏃

▼石器のつかいかた



まじまいせき  
**木島遺跡の人々**

木島遺跡は、富士川の木島地区にあり、昭和6年に地元の小学校の先生によって発見され、縄文時代の中でも古い時代の遺跡だということがわかりました。出土した土器の厚さが2～3mmと非常に薄いのが特徴で「おせんべい土器」とも言われ全国の研究者に注目されました。

最近の調査で、この土器が静岡県だけでなく、愛知県や長野県にまで広がっていることがわかりました。

木島遺跡からは、石斧、石皿、磨石、石錘(石のおもり)など、たくさんの石器が発見されました。このことから木の実などを採ったり富士川などで魚を獲ったりして生活していたと思われます。

せんげんばやし いせき  
**浅間林遺跡の土器の不思議**

富士川の西岸に沿って北に向かうと北松野です。その道筋に平らなところがありますが、そこから縄文土器がたくさん発見されました。ここが浅間林遺跡(3500～3000年前)です。

ここの土器を観察すると東北地方の土器と同じ模様が見られます。どうして遠くの土器と同じような模様があるのか不思議ですね。



▲木島遺跡と「おせんべい土器」



## 家づくり・ムラづくり

縄文時代の家は地面に穴を掘って、柱を立て、屋根を葺いた竪穴住居と呼ばれるものです。だいたいムラの中央は広場になって、その周りに円形や半円形に竪穴住居が配置されています。中央の広場はみんなて相談をしたり仕事をしたりする場所だったようです。



## 家の中は・・・?

たくさんの発掘調査から、家のなかには次のようなようすと考えられます。

家の大きさは直径が5mほど、柱は5～6本、屋根は草屋根、寒い地方ではその上を土でおおつこともありません。床も草敷きで、壁は少し盛り上げ、板を張り水が入ったり雨で壁が崩れたりするのを防ぎます。炉は中央にあって、石で囲んであり、煮たきのほか暖房や照明の役目もします。炉の近くには棚がつけられ食糧や生活に必要な物などを載せておきます。



▲天間沢遺跡の竪穴住居跡と炉

## 市内の縄文時代の遺跡

富士市内には縄文時代の遺跡がたくさんありますが、富士市の西の端と東の端に多く見られます。北松野の浅間林遺跡、富士川の本島遺跡・山王遺跡、岩本の念信園遺跡、天間の天間沢遺跡、原田の宇東川遺跡、中島遺跡、境の上の段遺跡など、現在、知られているだけでも90以上の遺跡があります。

これらの遺跡のなかでも、本島遺跡・山王遺跡や天間沢遺跡は、全国でも有名な遺跡です。

## くらしと食べ物

縄文人は何を食べていたのか考えてみましょう。縄文人は、動物や魚介類、木の実など自然から得られる物を加工して食べていました。現在でも季節になれば山菜採りに行きますね。

採集…春の山菜、秋の木の実などを採っていました。中でも木の実はクリ、クルミ、ドングリ、トチ、シイなど保存ができる実がいっぱいあります。これらはそのまま食べたり磨りつぶして団子やパンのようにして食べました。しかし、トチの実やドングリはそのままでは食べられません。水でさらすなどしてから調理しました。そのほかに山イモ、ユリの根なども食べていたようです。



トチの実やドングリの実のアクを抜いているようす

※『ドングリ』はブナ科のクヌギ、カシ、ナラ、カシワ、などの実をまとめた言い方で、正しくはクヌギの実のことを言います。

狩猟…狩りと言えばイノシシ、シカが主なものです。肉を食べるだけでなく、これらの骨や角は釣り針や銚、筋は弓のつるなどにも利用できました。狩りの方法は、主に弓矢を使ったり、ワナをしかけたりして獲物をしました。

漁労…縄文時代には川や海にも多くの食料を求めました。土や石でできたおもりをつけた網や、シカの角の釣り針や銚を使ってマグロ、カツオ、サケ、タイ、スズキ、コイ、フナなど、ハマグリ、シジミなどの貝類をとったり、海藻も食べたようです。イルカやクジラの骨が発見された遺跡もあります。

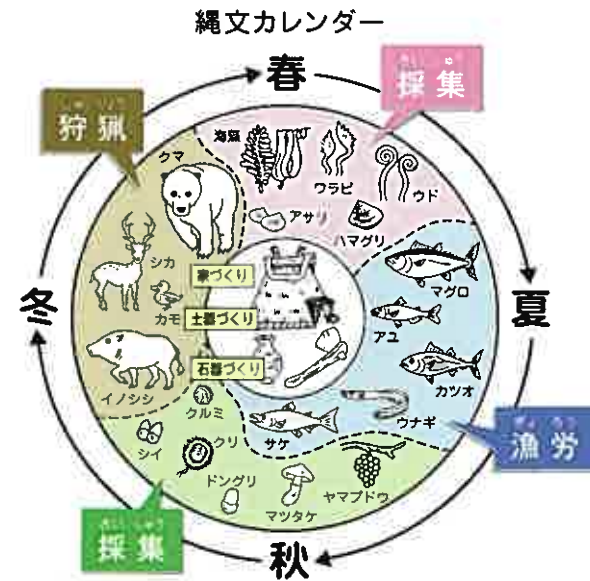
## 土 偶

土偶は、縄文人が呪術を行うときに使われた物のようです。しかし、どのように使われたかは不明な点が多いのですが、こんなことが言われています。土偶には完全な形をしているものが少ないことから病氣やけがに苦しむ人が、土偶のその部分を壊して完治を祈ったとする考えや、土偶が妊娠中の女性を形どったものが多いことから生命をはぐくむ女性をあがめた女神だとする考え方があります。みんなはどう思いますか。



## 縄文人の一年

縄文人の生活は天候や季節など自然に大きく左右されていました。特に食べ物は、自然の恵みを受けていたため、季節ごとにやって良いことや、してはいけないことなど厳しい決まりがあったことが想像されます。春は貝や山菜採り、夏は海に出て漁、秋には木の実とり、冬は狩りなどをやっていたと考えられます。また、土器づくりは、乾燥を良くさせるために冬の仕事であったと思われます。さらに石器づくりや、家の建て替えなど、人々は生きていくために、色々な作業を毎年繰り返してきました。



## 縄文人の服装

縄文人は、各地で発見される土偶(まじないのために土で作った人形)にあらわされた服装や髪形、髪にさす櫛などから、なかなかおしゃれだったようにみられます。

## 服

最近、各地の遺跡から、草や木の繊維を糸にして編んだ布の断片が発見されますので、この布で服をつくっていたと思われます。また、寒い冬には毛皮の服を着ることもあったようです。



～当時の家の中の様子～



～なかなかおしゃれだった縄文人～



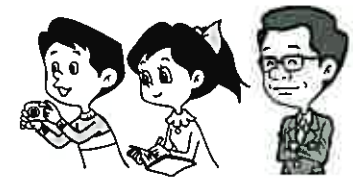
～布を編んでいるところ～

## 縄文人の心の文化

縄文人にとって自然は、生きるすべてであり、さまざまな命の源でした。しかし、時として自然は姿をかえ、人々の生活を襲い、病気や死を招くこともありました。自然の災害を避け豊かな収穫や子孫の繁栄を願うために、いろいろな信仰が生まれたようです。たとえば、歯を抜くこと(抜歯)は、痛みをがまんすることで大人になるあかしとなります。土偶は病気やケガなどの身代わりのほか、動植物の繁栄を願ってつくられました。石棒は子孫の繁栄のために祀りました。また、ヘビの模様がついた土器が発見されることがありますが、これは豊かな実りを願ったものです。このように、縄文時代の祈りや信仰は、自然に対する恐れや感謝のなかから生まれ、縄文人の心のよりどころとなったようです。



▲天間沢遺跡出土の埋葬



## ▼天間沢遺跡出土のヘビの模様のついた土器



▲北久保遺跡出土の猿面土偶(いれずみが表現されている)

▲破魔射場遺跡出土の人面釣手土器

▲天間沢遺跡出土の土偶の左足

▲天間沢遺跡出土の顔面とっ手

## まとめ

縄文人は自然とともに毎日の生活を送ってきました。人々は土器や石器をつくり、経験から学んだ自然のサイクルをうまく利用して生活を組み立ててきました。土器の発明によって食べ物を煮ることができるようになり、その種類も増えました。それでも食べ物は自然の恵みに頼っていたために天候に左右されたり、富士山の噴火もあつたりして、十分な食料を手に入れることができないこともあったでしょう。しかし、縄文人は互いに助け合って、きびしい生活の中に生きてきたことは、すばらしいことだと思います。



## ～弥生時代～

弥生時代は、今からおよそ2300年前(紀元前3世紀)～およそ1700年前(3世紀)までをいいます。この時代は中国大陸や朝鮮半島の文化の影響を強く受けて、鉄製の道具や鏡や剣のような青銅製の祭器(儀式などに使う道具)などを持つようになりました。

また、弥生時代を特徴づける米づくりも広まり、それまでの狩りや採集から稲作を中心とする生活に変わった時代です。その後の米を主食とする日本の文化のもととなりました。



▲的場遺跡出土の壺と台付甕

### 市内の弥生時代の遺跡

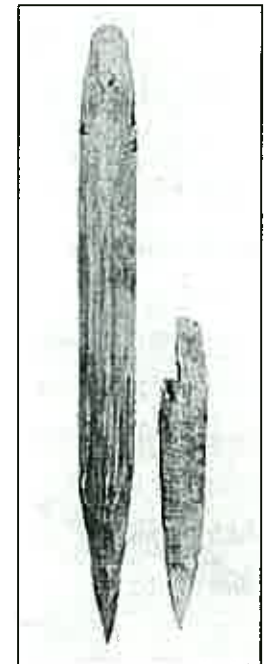
市内にある弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べて少なく現在27ほどの遺跡が知られるのみです。そのうち今泉の沖田遺跡、境の的場遺跡などは、浮島沼周辺の米づくりに適した場所にあります。これに対して、富士岡の向山遺跡や増川の平椎遺跡などは山腹や丘陵上にあります。また、富士川西岸には山王遺跡や中野遺跡があります。

### 地中深く眠る沖田遺跡

沖田遺跡は、弥生時代後半(1800年程前)から浮島沼西岸(今泉沖田)で米づくりをして生活していた人々の跡です。しかしこの遺跡は、地中深く埋まっています。調査を行うのが難しいのです。おそらく浮島沼の周辺には水田が広がり、少し高い場所にはムラがあったはずですが。



▲昭和のはじめごろの浮島沼の田植のようす



▲沖田遺跡出土の杭

### 弥生時代の田んぼ



▲水田跡(伊豆の国市山木遺跡)

弥生時代の初めごろの水田は、自然の低湿地を利用した湿田でした。弥生時代の後半の登呂遺跡(静岡市)や山木遺跡(伊豆の国市山木)では、水路を引いて杭や矢板を打ち込み、水田を小さく分けして水の調整をしています。収穫は、石包丁などを使って稲の穂を刈っていました。矢板・・・田んぼの畦がくずれないように畦にそって打ち込んだ平たく長い木の板

さんむろ いせき  
**山王遺跡(岩淵)**

東名高速道路の下り線、富士川サービスエリアのところに山王遺跡があります。この遺跡からは、縄文時代の終わりごろの土器と、この地方で最初の弥生土器が発見されました。表面に貝殻で斜めに引っかけたような模様のつけられた土器で、現在の愛知県あたりで始まり、東の地方に広まったものです。なお、これと同じ土器は富士宮市の渋沢遺跡でも発見されていますが、ともにまだ稲作が行われていたようすはみつかっていません。



▲山王遺跡遠景



▲稲の伝わったルート

**米づくり**

**起源**…稲作が起こった所は、中国の雲南やインドのアッサム地方だと考えられていました。しかし、現在は、中国の長江下流の遺跡でより古いモミが見つかったことから長江中・下流地域を稲作のはじめとする研究が注目されています。日本に米が伝わったルートには右の図のルートが考えられています。



▲平椎遺跡(増川)

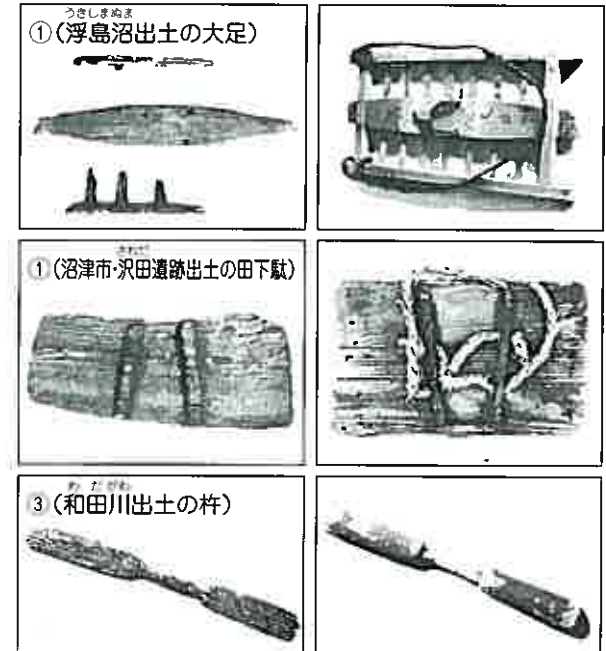
**田んぼの仕事**…田んぼを平らにし、水が全体にいきわたるようにします。その後モミをまきます。そして、収穫の日まで水の管理などをおこないます。このころの人々は、苗がそだってやがてくる豊作を神に願い、立派に米が実ったときは、喜びでいっぱいだったことと思います。

※ 弥生時代の米づくりについて、モミを直接水田にまいたのか、それとも現在のように苗代で苗を育ててから田植えをしたのか、学者のあいだでも意見が分かれています。

**農具の発達**…米づくりにはいろいろな道具が使われました。田起こしに使う鍬や鋤のほか、田の表面をならす柄振。肥料となる草を泥の中に踏み込んだりする大足。湿田を歩きやすくして作業能率をあげる田下駄。そしてモミの脱穀には臼や杵などが使われました。これらの道具は、形も変わらないで最近まで使われていたのは驚きですね。

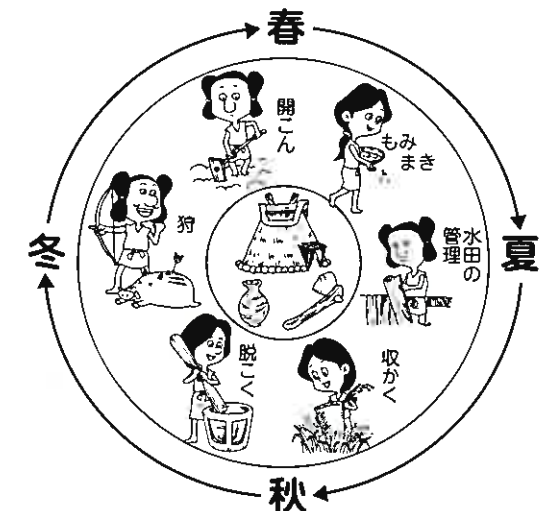


(遺跡から出土した農具) (最近まで使われていた農具)



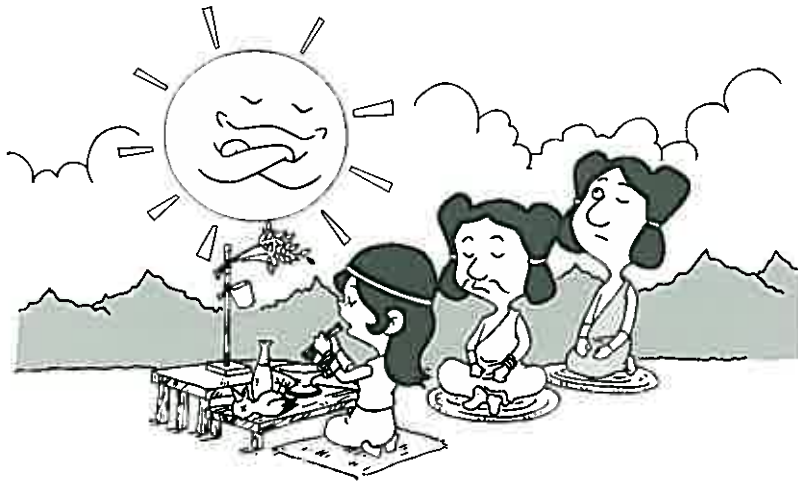
**弥生人の一年**

弥生人の生活の中心はなんといっても米づくりです。春には田起こしやモミまき、それが終わると収穫の秋まで稲の世話であけます。秋になると米の収穫・脱穀のほか、木の実とり、冬は田んぼや水路の開発や修理をします。このほか木の実の採集、狩り、家づくり、土器づくり、機織りなど次から次へと作業があります。自然や天候の影響を受ける生活なので、作物の豊作を祈って祭りや儀式を行ったことでしょう。



## きつきょう 吉凶占い

中国の歴史書の『魏志倭人伝』(280-290年)に、当時の日本では、なにかを始めようとするときに獣の骨を焼き、その裂け方で吉凶を占うと書いてあります。時として突然大きな災いを起こす自然のなかで、米づくりに命をかけた弥生人は、豊作祈願や雨ごいもやりました。その時、神の言葉をつげるミコもあちらこちらのムラにいたと思われます。なかでも卑弥呼の語る神のおつげは、邪馬台国のなかで強い力をもっていたことと思われる。



## まとめ

弥生時代は米づくりを中心にみてきました。食べ物は採るだけでなく栽培するようになりました。土器も縄文時代よりも装飾が少なく、形が機能的になりました。

### リーダーの出現

弥生時代の墓には、方形周溝墓や土坑墓、土器棺墓などがあります。財産を多く蓄えた特別な人が、大きな家に住み、特別な墓に埋葬されたと考えられます。古墳時代の初めごろの例ですが、特別な役割をもった人が埋葬された墓がありますので紹介します。

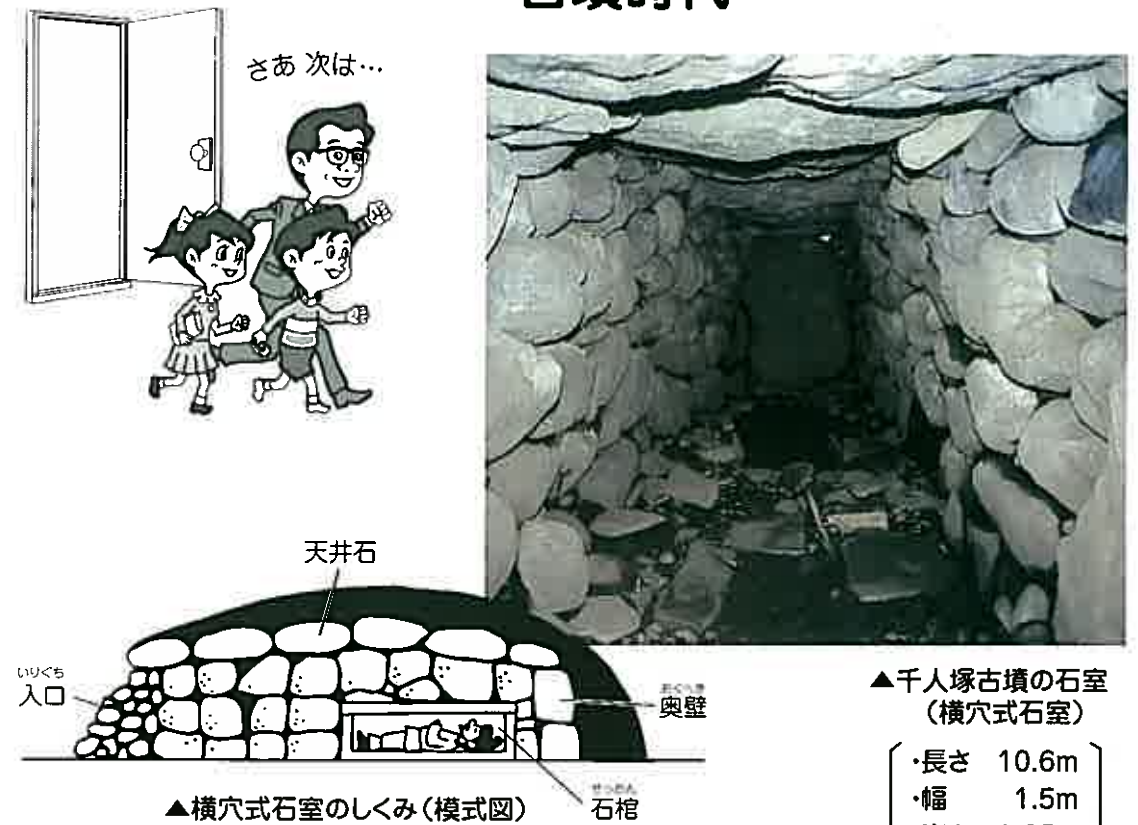
松野の中野遺跡(中野台)では「方形周溝墓」から、当時としてはとても貴重なガラス製の勾玉と小玉が発見されました。また、富士宮市の丸ヶ谷戸遺跡では「前方後方形周溝墓」という特別な形をした墓が発見されています。これらの墓は周りに溝を掘り、その土を内側に盛り、たくさんの人手と日数をかけて造られたものです。

これらの墓に埋葬されるのはムラのなかでも、特別な立場と役割をもったリーダーと考えられています。



▲中野遺跡出土のガラス製の勾玉と小玉

## ～古墳時代～



▲千人塚古墳の石室  
(横穴式石室)

- ・長さ 10.6m
- ・幅 1.5m
- ・高さ 1.65m

▲横穴式石室のしくみ(模式図)

古墳時代は3世紀中ごろから8世紀の初めごろまでを言います。3～4世紀の大王(後の天皇)や大和地方の豪族たちは、巨大な前方後円墳を造ることで大和王権の権力をしめし、その支配に従った地方の豪族も前方後円墳を造るようになりました。この地域でも4～5世紀には豪族の力を見せつけるように、ムラからあおぎ見るような丘陵の上に大きな古墳が造られました。6～7世紀になると、豪族に従う地域の有力者まで、小さな古墳を造るようになりました。このころから入口の石を外すことによって、何度でも埋葬ができる横穴式石室が採用されました。また、死者と一緒に墓におさめられる品物(副葬品)も4～5世紀には、鏡、剣、玉のように支配者としての権力を表すような品物が多いのに対して、6～7世紀の小さな古墳では土器や馬具・武具など、生活のようすや武力を表す品物に変わってきました。

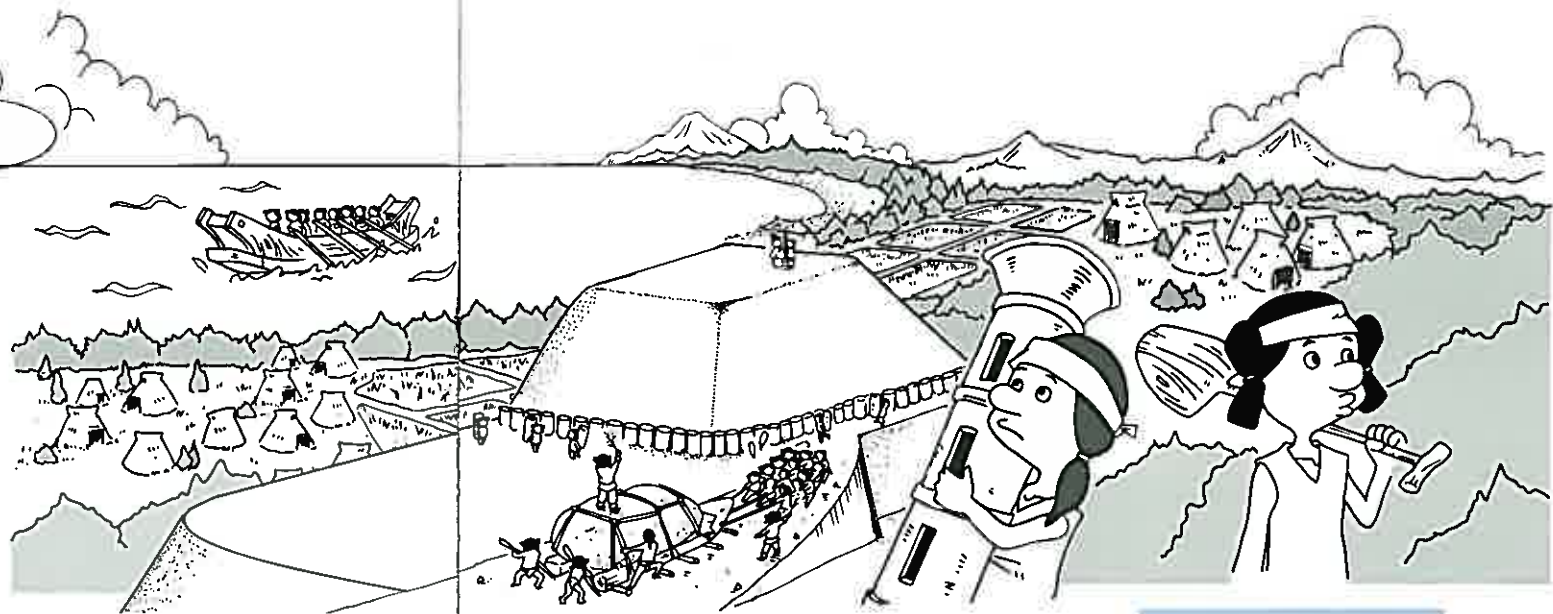
### 市内の古墳

市内には現在約800基の古墳があるといわれています。特に富士川西岸古墳群に約200基、船津・須津古墳群に約400基、この他にも富士岡、比奈、伝法古墳群などが知られています。



これは古墳を造っているところだよ!

へえ〜古墳はこうして造るの!

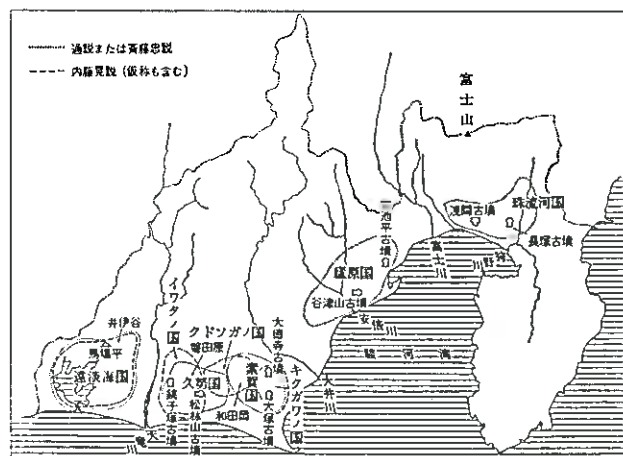


するが いおほら  
**珠流河のクニと廬原のクニ**

古墳が造られていた時代、富士市は何と呼ばれていたかはわかりませんが、奈良時代に書かれた『国造本紀』という本によれば富士川を境に東は「珠流河」、西は「廬原」と呼ばれていたようです。



▲浅間古墳(国指定史跡)



▲『国造本紀』の国々(若林淳之「静岡県の歴史」より)



▲前方後円墳とその内部(模式図)

せんげん こふん ひがしざか こふん  
**浅間古墳と東坂古墳**

珠流河のクニで一番古いと考えられる古墳が、増川にある国の指定史跡になっている浅間古墳です。長さ100mほどの前方後方墳です。発掘調査が行われていないので詳しいことは分かりませんが、4世紀の終わりと珠流河のクニを治めていた豪族のお墓といわれています。

この地域で浅間古墳の次に造られたのが東坂古墳です。吉原工業高校が建設された時に発見されて、調査が行われました。長さ60mほどの前方後円墳で、鏡や玉、石で作られた腕輪など、この地域の豪族にふさわしい副葬品が発見されています。この副葬品から5世紀の初めごろ造られた古墳であることがわかりました。



▲内行花文鏡



▲四獣鏡



▲首飾り



▲石釧



▲琴柱形石製品

東坂古墳出土の副葬品

## 豪族の墓から家族の墓へ

古墳時代の終わりごろになると、須津川、春山川のまわりや伝法一帯に小さな古墳がたくさん造られるようになります。

これは、古墳時代を通して、浅間古墳のように豪族の力をしめすための古墳から、地域の有力者の一族やその家族の古墳へと、古墳を造る目的が変わってきたことを表しています。

山王・室野坂・谷津原・妙見古墳群からなる富士川西岸古墳群や、伝法一帯の古墳には、奈良時代に造られた古墳も多くあります。妙見古墳群からは火葬した骨を納める蔵骨器と思われる土器が、伝法の西平第1号墳からは、役人の身分をあらわす帯金具が発見されています。



▲山ノ神古墳 後方左は庚申塚古墳



▲山ノ神古墳出土の埴輪▶



▲伊勢塚古墳



▲実円寺西第1号墳



▲谷津原17号墳



▲船津古墳群



▲花川戸第3号墳出土の土器



▲東平第1号墳の大刀と丁字形利器の出土のようす

▶谷津原1号墳出土の単龍環頭大刀の柄頭



▲妙見I-5号墳出土の蔵骨器



▲西平第1号墳出土の帯金具とわらび手刀

### 富士市内の古墳のかたち



円墳

- ・伊勢塚古墳
- ・琴平古墳
- ・実円寺西第1号墳
- ・稻荷塚古墳
- ・横沢古墳
- ・大坂上古墳
- ・千人塚古墳
- 他



前方後円墳

- ・東坂古墳
- ・山ノ神古墳
- ・天神塚古墳



前方後方墳 (浅間古墳)



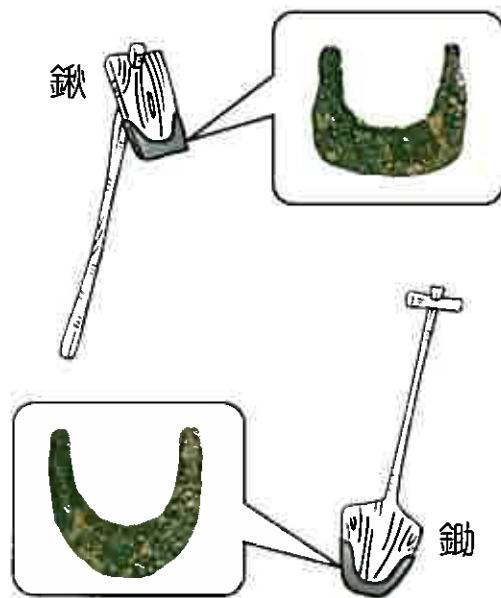
双方中方墳 (庚申塚古墳)



## ～古墳時代のくらし～

古墳時代になると、鍬や鋤にも鉄の刃がつき、鉄製の釣り針が使われるなど、鉄が広く使われるようになりました。そのため水田も湿地だけでなく、川の周辺にできた少し高いところでも水路を引くことができるようになるなど開発が進み、今までよりも米がたくさんとれるようになりました。

古墳時代の中ごろになると、朝鮮半島からたくさんの人々がわたってきました。その人たちによって須恵器やカマド、馬の利用など新しい技術や知識が日本に伝わってきました。



▲中原第4号墳出土の鍬と鋤の鉄の刃先

### 市内の古墳時代の集落

市内には、古墳時代の遺跡がたくさんあります。天間の天間沢遺跡、岩本の高德坊遺跡、久沢の沢東遺跡、原田の宇東川遺跡、元吉原の三新田遺跡、増川の宮添遺跡、境の的場遺跡、船津の寺の上遺跡など、現在知られているだけで48遺跡もあります。その中でも宇東川、宮添、的場、三新田、寺の上遺跡などは浮島沼で米づくりをした人々のムラだと考えられます。

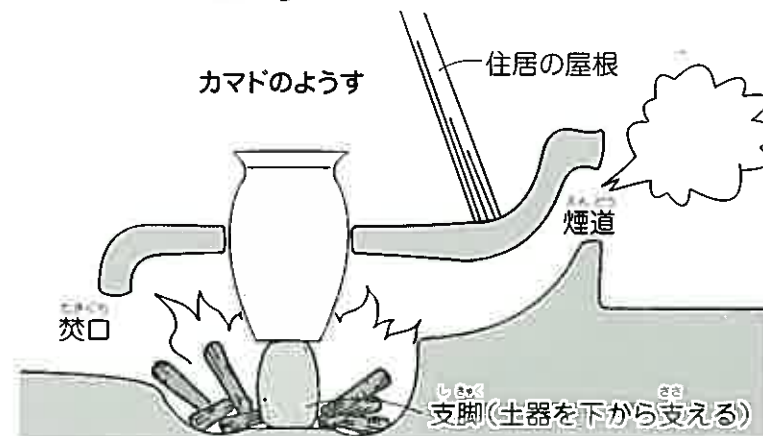
縄文時代から古墳時代の中ごろまでは、竪穴住居のほぼ中央に炉があるのが普通でしたが、古墳時代の中ごろになると竪穴住居の壁にそってカマドが造られ、煙道を設けて煙も外に出るようになりました。このことによって土器の形も、カメはカマドにかけやすいように細長くなり、煮炊きするだけでなく、米を蒸して食べることも行われるようになりました。



炉のようす



カマドのようす



さんしんでん いせき  
**三新田遺跡の人々**

もとよしわら  
 元吉原にある三新田遺跡は、4～5世紀ごろの人々が生活していた跡です。

ムラの南には駿河湾が、北には浮島沼が広がっています。この遺跡からは網に使う石錘や土錘がたくさん発見されています。米づくりとともに漁労をさかんにおこなっていた遺跡であると思われます。



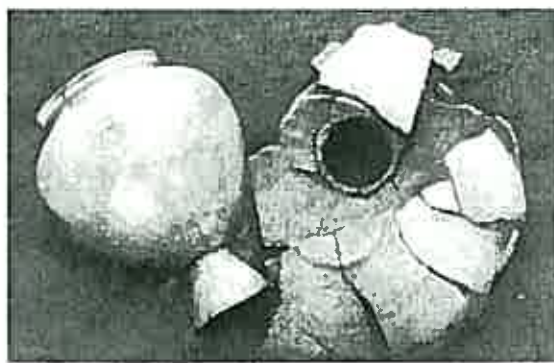
▲石錘



▲土錘



▲竪穴住居跡



▲土器出土のようす

はじき すえき  
**土師器と須恵器**



**土師器**

土師器は、弥生時代からの流れを受け継ぐ素焼きの土器で、おもに日常の食器や煮炊きに使われました。



**須恵器**

須恵器は、古墳時代の中ごろに朝鮮半島から伝えられた土器で、細やかな良質の粘土を使い、登り窯で1100度前後の温度で焼きます。これらは古墳の副葬品として作られたものですが、後にその一部の種類は、日常の食器に広く使われました。

さわひがし  
**沢東A遺跡の人々**

うらいがわ くざわ かじま  
 沢東A遺跡は、潤井川が、久沢から加島平野に出るあたりにあります。古墳時代の中ごろの竪穴住居の跡がたくさん発見されました。

この時期に炉からカマドにかわる大きな変化があったことがわかりました。

また、この遺跡からは、ムラの祭りで使われていたと思われる、静岡県内でも珍しい子持勾玉が、二つも発見されています。このことから沢東A遺跡は、この地域の中心のムラであったと思われます。



▲沢東A遺跡



▲子持勾玉



▲井戸跡



▲カマドのある竪穴住居跡

**まとめ**

古墳時代は、古墳と人々の暮らした集落にわけてみましたが、どうでしたか。古墳は最初、浅間古墳や東坂古墳のように、今の富士市から沼津市あたりまでの広い範囲を治める豪族一人のための墓でした。やがて、豪族に従う地域の有力者まで古墳を造るようになり、市内の各地に800基ともいわれる古墳が造られました。一方ムラの暮らしでは、5世紀に朝鮮半島から来た人々によって新しい技術や生活の仕方が伝わり、生活が大きく変化しました。





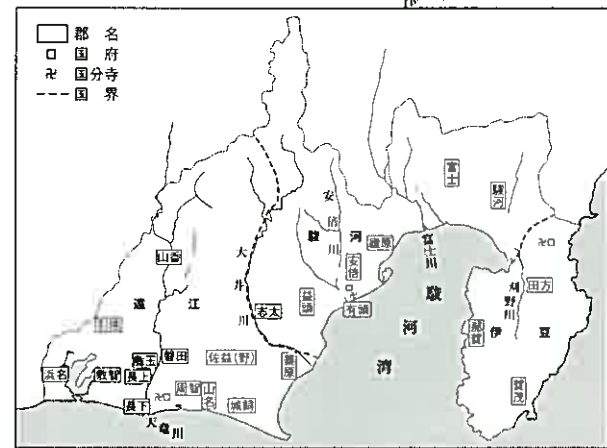
東平遺跡は役所やお寺を  
中心に栄えたんだよ。

手前の人たちは、役人  
につれられて調(税)を都  
まで運ぶんだね!



## ～奈良・平安時代～

奈良・平安時代は、中国の隋や唐の政治や文化を取り入れ、律令(法律)に基づいて全国を治めました。律令国家(天皇を中心とした政府)は諸国に国司(国の長)をおき、都から中央の役人を派遣しました。国司は、その地方の有力な豪族から郡司(郡の長)を任命し、地方を治めさせました。国衙や郡衙はその役所です。



▲古代の静岡県の国と郡

このころ、現在の静岡県は西から遠江国、駿河国、伊豆国と三つの国に分かれていました。駿河国には七つの郡が置かれていました。富士市はそのころ、富士川を境に西は鷹原郡に属し、東は富士郡でした。しかし、JR東田子の浦駅付近の柏原は駿河郡に属していました。

## 和名類聚抄に書かれた郷

奈良時代の富士郡には九つの郷(ムラ)があって、姫名郷は現在の比奈、久式郷は東平遺跡のある現在の伝法一帯と考えられていますが、その他の郷についてはまだ分かっていません。下に平安時代の辞典「和名類聚抄」に書かれている郡や郷(ムラ)についてしめしてみました。

駿河郡の郷	(柏原郷 矢集郷 子松郷 古家郷 玉作郷 横走郷 駿河郷 山崎郷 穴人郷 永倉郷 宇良郷)
富士郡の郷	(島田郷 小坂郷 古家郷 蒲原郷 駅家郷 大井郷 久式郷 姫名郷 神戸郷)
鷹原郡の郷	(西奈郷 大井郷 河名郷 鷹原郷 蒲原郷 息津郷)



▲東平遺跡出土の土器



▲掘立柱建物群跡 (規則的に並んだ倉庫の柱のあと)



▲東平遺跡 昭和54年調査区の一部

**富士市の奈良・平安時代の遺跡**

富士市の奈良・平安時代の遺跡は、現在30ヶ所ほどが知られています。この中でも、天間(てんま)の天間代山遺跡、伝法(でんぽう)の中桁(なかつば)・中ノ坪(なかつのひら)遺跡、東平(とうへい)遺跡、今泉(いまいずみ)の舟久保(ふねくぼ)遺跡、元吉原(もとよしわら)の三新(さんしん)田(た)遺跡、柏原(かしはら)遺跡、岩淵(いわぶち)の破魔射場(はまやば)遺跡、北松野(きたまつの)の浅筒林(せんげんばやし)遺跡などは、発掘調査によって集落(しゅうらく)のようすがわかってきました。この中でも東平遺跡は、規模(きぼ)も大きく富士郡(ふじぐん)の中心(ちゅうしん)となる役所(やくしょ)が置かれていたと考えられています。

ひがしひら い せき ほうしょうじ  
**東平遺跡と法照寺**

東平遺跡は、昭和40年、東名高速道路の富士インターチェンジが造られるときに発掘調査されたたくさんの竪穴住居跡や掘立柱建物跡が発見されました。その後数多くの調査が行われ、新たに発見されたものも加えると、竪穴住居跡が約400軒、掘立柱建物が約100棟にもなり、非常に大きな遺跡であったことが分かってきました。

この遺跡からは、役人がベルトにつけた帯金具や寺院に使われた瓦、「寺」と墨で書かれた土器も発見されました。こうした遺構や遺物から東平遺跡は富士郡の役所(郡衙)や平安時代の書物「三代実録」に記録された寺院(法照寺)に関する遺跡であると推定されます。

平安時代の「扶桑略記」という歴史書によると、902年富士郡の役所は、盗賊に襲われて焼かれたと記されています。



▲帯金具

復元▶



▲「寺」と墨で書かれている土器

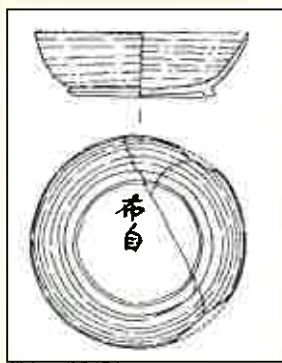


▲寺院につかわれた瓦 (一部復元)

ぼくしよ ど き ぶじ  
**墨書土器「布自」の発見**

東平遺跡から「布自」と墨で書かれた土器が発見されました。「布自」は奈良時代に編集された「万葉集」から「ふじ」と読み「富士」と同じ意味であることがわかりました。

「万葉集」を調べてみると、富士をあらわすのに「布自」のほか「不二」「不尽」「布土」「布仕」「不自」「不時」などの漢字(万葉仮名)が使われています。



**東平遺跡の建物**



▲竪穴住居(一般住居・復元)



▲掘立柱建物(倉庫・復元)

東平遺跡の建物は、富士市立博物館の西にある「広見公園内」に復元してありますので、見てください。

さんしんでん いせき もつかん  
**三新田遺跡と平城京発見の木簡**

駿河郡に属していた三新田の人々は、浮島沼のまわりで米づくりだけでなく、主に海で漁をしていたようです。「柏原郷」や「富士郡」から「煮堅魚」や「荒堅魚(かつおぶし?)」を調(税)として納めていたことが書かれた木簡(木の荷札)が、奈良の平城京跡から発見されています。



▲堅魚と書かれた木簡(復元)

おびかなぐ  
**帯金具**

帯金具は、帯(今のベルト)を飾る銅製の金具で、東平遺跡の住居跡からも出土しています。これは、役人の身につけるもので、これの大きさや数で役人の身分の上下をあらわしています。東平のムラにも富士郡の役所に勤める役人が住んでいたと考えられます。



は ま い ば い せ き    せん げんばやし い せ き  
**破魔射場遺跡と浅間林遺跡**

北松野の浅間林遺跡と岩淵の破魔射場遺跡は平安時代の村の跡です。この遺跡からは地元の土器に混ざって、静岡県の中・西部で焼かれた須恵器、愛知県や山梨県・長野県で焼かれた土師器だけでなく、灰釉陶器や緑釉陶器という高級な陶器が発見されています。両方の遺跡は規模もあまり大きくなく、有力者のいる村とは思われません。これらの高級な陶器は、この付近で交易するために持ち込まれた物と考え、二つの遺跡は、富士川のそばにあり、駿河湾に近いことなどから、人や物が交流する重要な場所であったと考えられます。



浅間林遺跡出土の  
 灰釉陶器



破魔射場遺跡  
 出土の緑釉陶器

さん しん でん い せ き  
**三新田遺跡発見の墨書土器**

写真は、三新田遺跡から発見された「三枝」と「廣足」と書かれた土器で、このムラに住んでいた人の名前です。「三枝」というのは、このころ甲斐(山梨県)の国に三枝という有力者がいたので、その一族の親戚かもしれません。三新田遺跡も東平遺跡とおなじように、各地から人が移り住んだムラのようなようです。この時代、文字が書けるのは、身分の高い人や役人なので「三枝」や「廣足」の土器の持ち主は、ムラの有力者であったのかもしれません。



▲三新田遺跡出土(三枝)



▲三新田遺跡出土(廣足)

ひんきゅうもん どう が  
**貧窮問答歌とくらし**

歌人で役人の山上憶良は、貧しい農民の生活を「つぶれそうに傾いた家の中では地面にワラを敷き、家族が固まって寝ている。カマトにはご飯を炊くこともできないのでクモの巣がはっている。それなのに役人は税を出せとさげんでいる」と、歌っています。



～当時の人々はきびしく税をとり立てられた～

**まとめ**

奈良・平安時代には、奈良や京都に都が置かれていました。そこは中国の都にならって碁盤の目のように配置された道路で囲まれたなかに、天皇の住む宮殿や国の役所や寺院が立ち並び、まさに国際都市にふさわしい都でした。

駿河国は静岡市に国府(現在の県庁にあたる役所)がおかれていました。富士郡の役所は「布自」と墨で書かれた土器が発見された東平遺跡に、国が管理する「法照寺」は瓦の発見される範囲から、今の三日月市浅間神社の近くにあったことが考えられています。

富士郡の役所には、稲・織物・海産物(煮堅魚や荒堅魚)など、たくさんの品物が集められました。これらの運搬には、道路を使うほかに、船の利用も考えられます。三日月市浅間神社を源とする和田川は、こうした役割を果たしていたのではないかと思います。

本書の編集にあたり静岡県教育委員会(文化財保護課)の協力をいただきました。

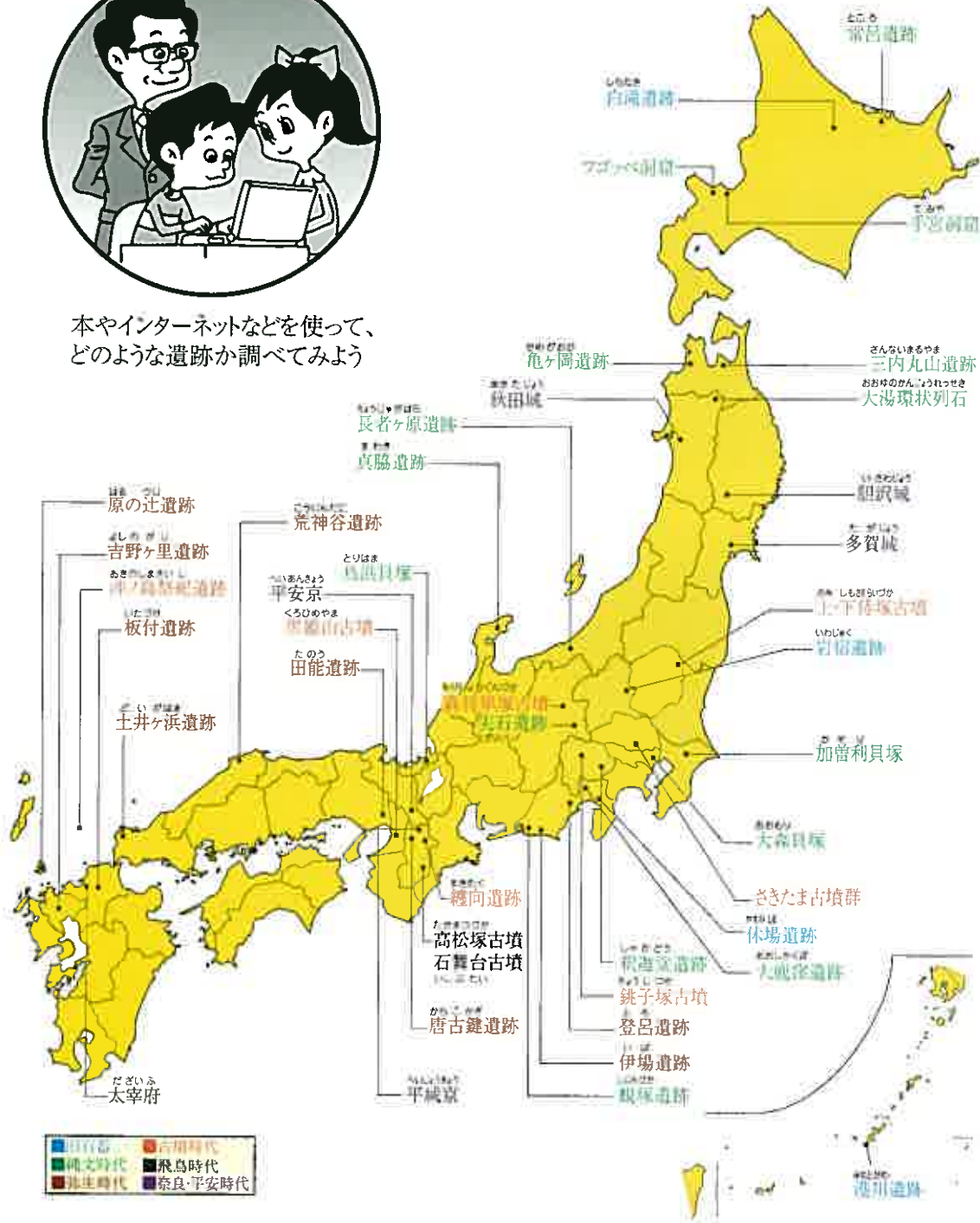
**掲載資料**

- (1)「古木戸B遺跡出土の尖頭器」(4ページ)の写真は「第二東名発掘調査報告書 No44地点」に掲載の写真を静岡県埋蔵文化財調査研究所よりお借りしました。
- (2)「沼津市元野遺跡 元野遺跡の地層」(5ページ)の写真は「愛鷹山を駆けめぐった旧石器人」に掲載の写真を静岡県埋蔵文化財調査研究所よりお借りしました。
- (3)「磐田市高見丘遺跡 調理跡と思われる石の集まり」(4ページ)と「三島市八田原遺跡 落とし穴群」(4ページ)の写真は「愛鷹山を駆けめぐった旧石器人」に掲載の写真を静岡県教育委員会(文化財保護課)よりお借りしました。
- (4)「若宮遺跡と天間沢遺跡の石器出土の円グラフ」(8ページ)は富士宮市文化財調査報告書第16集「富士宮市の遺跡」から転載させていただきました。

# 全国の主な原始・古代遺跡分布図



本やインターネットなどを使って、  
どのような遺跡か調べてみよう



## 富士市の原始・古代の歴史を調べるには

施設名	住所	電話
富士市立博物館	富士市伝法66-2 (広見公園内)	0545-21-3380
富士市教育委員会文化振興課	富士市永田町1-100	0545-55-2875
富士市埋蔵文化財調査室	富士市伝法79-2 (広見公園内)	0545-22-2095
富士市立中央図書館	富士市永田北町3-7	0545-51-4946
富士市立西図書館	富士市富士町20-1 (富士市交流プラザ内)	0545-64-2110
富士市立東図書館	富士市比奈1447-1	0545-38-1550
富士市立富士文庫	富士市久沢797-1	0545-72-1612

## 静岡県内各地の原始・古代の歴史を調べるには

施設名	住所	電話
中伊豆歴史民俗資料館	伊豆市上白岩425-1	0558-83-1859
修善寺郷土資料館	伊豆市修善寺838-1 (修善寺総合会館内)	0558-72-1934
伊豆の国市葦山郷土史料館	伊豆の国市葦山葦山2-4	055-949-4127
三島市郷土資料館	三島市一番町19-3 (楽寿園内)	055-971-8228
沼津市歴史民俗資料館	沼津市下香貫島郷2802-1 (御用邸記念公園内)	055-932-6266
静岡市立登呂博物館	静岡市駿河区登呂5-10-5	054-285-0476
藤枝市郷土博物館	藤枝市若王子500	054-645-1100
島田市博物館	島田市河原1-5-50	0547-37-1000
焼津市歴史民俗資料館	焼津市三ヶ名1550	054-629-6847
浜松市博物館	浜松市中区蛸塚4-22-1	053-456-2208
浜松市博物館分館伊場遺跡資料館	浜松市中区東伊場二丁目22-1	053-454-1485
静岡市埋蔵文化財センター	静岡市清水区横砂東町33-2	054-367-9436
磐田市埋蔵文化財センター	磐田市見付3678-1	0538-32-9699



中原第4号墳出土土器

—富士市原始・古代の旅—

平成23年3月

発行 富士市教育委員会  
編集 富士市教育委員会文化振興課  
富士市永田町1丁目100番地  
TEL (0545) 55-2875  
印刷 富士ニュース社

富士市行政資料登録番号 22-31

組		氏 名	
---	--	--------	--